令和６年度　事業報告　総括

法人創立から50年が過ぎて令和６年度は100年を目指しての第一歩を踏み出しました。特別高ぶることもなく堅実に、希望の家関係者一同力を合わせスタートが切れたと思います。

しかし、社会情勢は外国の紛争や物価高騰、気候変動等の不安な要因が多く、その影響を希望の家も受けて多難な１年でもありました。なかでも電気やガスの光熱費並びに食材料費の上昇が続き施設や事業所運営に大きな影響を及ぼしましたが、利用者が安心して施設等を利用できることが一番と念頭に置いて、利用者にしわ寄せがいかないよう対策を講じることに苦心しました。

新型コロナの感染者数減少や症状の軽症化があり、少しは安堵していたところ、新型コロナ感染に加えインフルエンザも重ねて発生する事態となり、施設を隔離し終息に努めました。利用者には隔離による行動制限がストレスとなったり、支援員には通常支援以外の看護業務等が増えたりと苦労をかけてしまいましたが、皆で協力し乗り切ることができました。今後も感染対策を日常的に行うなど、慎重に行動していきます。

決算報告では、３年毎に実施される障害福祉サービス等報酬改定内容を検証して障害福祉サービス事業収入を増やし、物価高騰により支出が増える状況のなか経費削減等にも努め、黒字決算となりました。作業では、JSP 班は安定した生産数を確保し、年度末に例年同様特別工賃を支給しましたが、武子・日向ともリサイクル作業の減少やパン作業の一時休止の影響により就労事業収入は減少し、2～3 年後にはテープリサイクル作業とボンド作業が終了することも決まり、新規作業確保が必要不可欠な状況です。

希望の家を 30 年以上利用された方２名を含め、３名の利用者が他界されました。保護者だけでなく通所利用者本人も高齢となる方が増えて、親亡き後の相談も増えています。グループホームでは、比較的年齢の若い通所利用者が今後を見越して定期的な体験利用があり、１名はグループホームに入所となりました。

職員においては、採用６名・退職８名となりました。退職者のうち２名の方が不運にも勤務中に体調に異変をきたし他界されました。疾病や体調不良、加重な業務実態もなく残念に思います。ご逝去された利用者並びに職員の方々について、ご冥福をお祈りいたします。その他の退職の理由については、再雇用や再々雇用の職員が年齢や体力低下によるものや、新しい道に進みたいという理由で転職した方も一部いました。利用者支援に欠かせない支援員の確保は大変重要であり、採用手段の多様化を図り、支援員確保に取り組んでいきます。

報酬改定では、障害者虐待防止及び身体拘束の適正化等の権利擁護の徹底に加え、感染症流行時や災害時の事業継続計画（BCP）の策定等が未実施だった場合の報酬削減等が示されました。委員会を立ち上げる等して取り組んでいますが、まだ十分でない部分も散見されるため、あらためてきちんと向き合い、継続して取り組みながら内容を充実させていきます。